

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	グループ診療で訪問診療を行う際「個々の医師によって説明する内容が違う」と家族が感じることは「訪問間隔が長いこと」「医師に会話を遮られた家族の経験」と関係している
演者名	木村琢磨 1) 2) 3)、今永光彦 3)、松崎淳人 4)、笈孝太郎 1)、五味一英 5)、赤星透 1) 2)
所属	1) 北里大学医学部総合診療医学、2) 北里大学医学部地域総合医療学、3) 国立病院機構東埼玉病院総合診療科、4) 東邦大学医学部卒後臨床研修・生涯教育センター、5) 桜新町アーバンクリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

背景

グループ診療で訪問診療を行う際「個々の医師によって説明する内容が違う」と家族が感じる事が生じうるが、家族を困惑させる可能性があり防ぐ必要がある。しかし、その臨床的背景は不明である。

目的

グループ診療で訪問診療を行う際「個々の医師によって説明する内容が違う」と家族が感じる臨床的背景を明らかにする。

方法

国立病院機構東埼玉病院総合診療科の訪問診療受診歴がある患者の家族 271 名を対象に、2011 年 6-7 月に質問紙票による横断調査を行った。「個々の医師によって説明する内容が違う」と感じた経験の有無を尋ね、以下の説明変数から成る多変量モデル：訪問医師の人数、訪問間隔、滞在時間、医師の医療面接スキル（①医師の説明に専門用語が多かったと思うか、②医師は最後に他にお話しすることはありますかと確かめたか、③医師に会話を遮られた経験があるか、④医師はうなずきながら話を聴いたか、⑤医師は視線をあわせてやりとりしたか、）基礎疾患が悪性腫瘍か否か、訪問看護利用の有無、医師からの電話説明の有無、を作成しロジスティック回帰分析を行った。

結果

回収された 227 名（回収率 83.8%）のうち全ての項目に回答した 139 例を分析した。「個々の医師によって説明する内容が違う」と感じた経験があると回答した家族は 30 名（21.6%）であった。グループ診療で訪問診療を行う際「個々の医師によって説明する内容が違う」と家族が感じることは、訪問間隔（調整オッズ比：1.103, 95%信頼区間：1.008 - 1.208, $p = 0.033$ ）、「医師に会話を遮られた経験」（調整オッズ比：2.559, 95%信頼区間：1.166 - 5.615, $p = 0.019$ ）と有意に関連していた。

結論

グループ診療で訪問診療を行う医師は、「訪問間隔」や「診療中に家族の会話を遮らないこと」に十分配慮すべきである。